

王希奇

歴史絵画

「一九四六」大阪展

敗戦後、旧満洲から日本へ
引き揚げる数百名を描いた――

生
命
の
尊
厳

「戦争」や「命」に何を想い、声にするのか ...

2027年4月7日(水)－17日(土) ※12日(月) 休館日

時 間 9:30～18:30

会 場 豊中市立文化芸術センター

入場料 前売り券1,200円、当日券1,500円、大学生800円(大学院生含む)
高校生以下・障害者 無料

【主催】 王希奇「一九四六」大阪展実行委員会

【特別協力】 城西国際大学

【後援】 (一社)関西日中平和友好会、(一社)豊中市日本中国友好協会、NPO 法人大阪府日本中国友好協会、
奈良県日本中国友好協会、京都府日本中国友好協会、滋賀県日本中国友好協会、大阪華僑総会

旧満洲から日本へ 引き揚げを描いた「一九四六」

歴史絵画 高さ 3m×長さ 20m



「一九四六」2011-2015 油彩 全体図



制作の経緯

歴史濁流の中、旧満洲国には約155万人の日本人が在住。第二次世界大戦敗戦後、ソ連軍占領下の旧満洲が大変混乱している中で、多数の日本人が飢えと病気の犠牲となった。翌1946年、それらの日本人が葫蘆島から日本へ引き揚げられることになった。

作者は男装した少女が母の遺骨を抱いて日本へ引き揚げられる写真(左図:絵画から抽出)を目にして心を打たれた。「彼らはなぜこれほどまでの苦しみを強いられたのか」という疑問を念頭に、平和の重要さを後世に残すことを目的とし、本作を描き始めた。

引き揚げの歴史や
平和の重要さを
後世へ



中国人画家

王希奇

中国錦州市生まれ。魯迅美術学院油絵学部教授、中国美術家協会会員。国家金メダル賞等を多数受賞した。代表作は『三国志・赤壁の戦い(合作)』や『長征』等の大型絵画である。多数の大型絵画は中国美術館や博物館に収蔵されている。2011～2017年にかけて葫蘆島より105万人余の残留日本人の大送還をテーマとした大作「一九四六」をはじめ、関連するシリーズ作品計50点を制作した。

豊中市立文化芸術センター

大阪府豊中市曽根東町3-7-2

【電車】

阪急宝塚線「曽根」駅
東へ約300m 徒歩約5分

【駐車場】

会場地下(有料)64台(うち小型3台、身障者用3台)
初めの30分まで無料。以降30分毎100円。
(2026年4月1日現在)

